

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成 25 年 4 月 24 日（水）に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は、全国の状況を参考にしながら、本市の教育施策の成果と課題を把握するための一つの指標と考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

◎川崎市の教科別調査結果

1 教科に関する調査の平均正答率

		小学校調査				中学校調査			
		国 語		算 数		国 語		数 学	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平成25年度 平均正答率 (公立)	川崎市	62.7%	52.5%	78.1%	61.3%	77.2%	70.4%	64.4%	42.7%
	全 国	62.7%	49.4%	77.2%	58.4%	76.4%	67.4%	63.7%	41.5%

* A 問題：主として「知識」に関する問題、B 問題：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 8 項目（各教科 A、B 問題）のいずれの平均正答率も全国に対して±5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

◎各教科の概要（◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題のある点）

【小学校 国語】

本市の小学校国語の全体的な結果は、全国とほぼ同様、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国の結果と同様、A 問題に比べて B 問題の正答率が 10 ポイント程度低くなっている。目的や意図に応じて必要な内容を引用したり関係付けたりして書くこと、自他の読み方を交流し効果的な読み方を工夫することなどが課題である。

話すこと・聞くこと

- ◇相手の立場や状況を感じ取って聞くこと
- ◆スピーチの表現を工夫すること

書くこと

- ◆文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと
- ◆目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと

読むこと

- ◆俳句の情景を捉えること
- ◆2 人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ことわざの意味を理解すること
- ◇接続語「だから」のもつ働きを理解すること
- ◆文の定義を理解すること
- ◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと

【小学校 算数】

本市の小学校算数の全体的な結果は、全国とほぼ同様の結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が17ポイント程度低くなっている。二つの数量の関係を根拠を明確にして説明すること、求積に必要な長さに着目し面積が等しいことを合理的に表現すること、割合が一定のときに基準量の大小から比較量の大小を判断することなどが課題である。

数と計算

◇商が小数になる除法の計算をすること

◆三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述すること

量と測定

◇曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解すること

◆示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述すること

図形

◇見取図の高さと展開図の側面の辺の長さが対応していることを理解すること

◇示された情報から二つの要素の意味を理解し、ものの位置を特定すること

数量関係

◇基準量と比較量の大きさの関係を理解すること

◆割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述すること

【中学校 国語】

本市の中学校国語の全体的な結果は、全国とほぼ同様の結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が7ポイント程度低くなっている。目的に応じて伝えたい内容を適切に書くこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことなどが課題である。

話すこと・聞くこと

◇話すための材料を多様な方法で集めること

◇論理的な構成や展開を考えて話すこと

書くこと

◆文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと

読むこと

◇描写の効果を考え、内容を理解すること

◇文脈の中における語句の意味を理解すること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇漢字の楷書と行書との違いを理解して書くこと

◇文脈の中で敬語を適切に使うこと

◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことの一部

◆比喩を用いた表現について理解すること

【中学校 数学】

本市の中学校数学の全体的な結果は、全国とほぼ同様の結果となっている。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が20ポイント程度低くなっている。数学的な解釈に基づいて事柄が成り立つ理由を説明すること、問題解決のために数学を活用する方法を考えること、事象を多面的に見ることなどが課題である。

数と式

◇具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること

◆事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明すること

図形

◇見取図、投影図から空間図形を読み取ること

◆示された方針に基づいて証明すること

関数

◇与えられた一次関数の式について、 x の値に対応する y の値を求めること

◆事象を理想化・単純化して事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えること

資料の活用

◆ヒストグラムから相対度数を求めること

◆資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明すること

◎生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果より（抜粋）

○朝食を毎日食べている。・・・	小学校	95.4%	中学校	91.4%
○自分にはよいところがあると思う。・・	小学校	74.3%	中学校	65.0%
○将来の夢や目標を持っている。・・・	小学校	85.2%	中学校	71.1%
○テレビゲームの時間が2時間以上（※）・・	小学校	29.9%	中学校	31.0%
○学校の授業時間以外の勉強時間。（※）				
◎2時間以上・	小学校	35.0%	中学校	40.4%
◎30分以下・	小学校	18.8%	中学校	17.1%
○家で自分で計画を立てて勉強している。	小学校	55.3%	中学校	42.2%
○家の人（兄弟姉妹を除く）と普段夕食を食べる。				
小学校	86.8%	中学校	78.9%	
○家の人と学校での出来事について話をしている。				
小学校	75.0%	中学校	64.0%	
○学校で友達に会うのは楽しい・・・	小学校	96.5%	中学校	94.0%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。・	小学校	92.2%	中学校	91.0%
□地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。				
小学校	56.2%	中学校	48.4%	
□人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。				
小学校	91.5%	中学校	92.8%	
□学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しい。	小学校	54.0%	中学校	64.0%
□普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。				
小学校	79.5%	中学校	71.3%	

- ・ 数値には「どちらかといえば」「時々」を含む
- ・ （※）印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった学習や生活の状況を踏まえ、教育施策の充実を図ってまいります。また、各学校に対しましては、調査結果に基づいて児童生徒の実態を把握し、指導方法等の改善・充実が図られるよう研修会の開催、指導主事の派遣など、啓発・支援に努めてまいります。

【担当】

川崎市総合教育センター
カリキュラムセンター
担当課長 榎原 844-3730